

平木の浅間様

平木を歩く

10年前の平成19年6月号に掲載した野田地区野手の浅間神社にまつわる「浅間様の伝説 夏に降った大雪」をご覧になった人から、匠瑳市内の浅間信仰の問い合わせがありました。

旧八日市場市域でそれに関する神社や石祠（石宮）は、20ほどまつられています。そのうちの1社、平木・平木内区（平和地区）の浅間神社を紹介します。



平木・平木コミュニティセンター敷地内にある浅間神社

市街から県道104号を銚子方面に進み平和小学校を過ぎしばらく行くと、左側に平木コミュニティセンターがあります。敷地内に「浅間神社」の額が掲げられる朱塗りの鳥居の奥に、2基の石祠がまつられています。

台石に刻まれた由緒によると、コミュニティセンター建設の際、昭和57年4月19日に富士山本宮浅間大社を代表がお参りし分霊を新たな石祠にまつり、同25日に神霊を移す遷座祭を行ったとあります。

本宮浅間大社は、静岡県富士宮市にあり、全国の浅間神社の起源とされています。

新しい石祠に向かって右の「浅間宮」は、1828（文政11）年2月に平

内新田集落でまつたと刻まれ、元あった場所からここに移されたとされます。

平木区は区域が広く、江戸時代から集落ごとに信仰活動が行われていました。「千葉県県宗教法人名簿」に登録される同区の神社は惶根神社と星宮神社の2社のみですが、熊野神社や八坂神社、浅間神社などもまつられています。また、寺院も記録から9か寺あったとされ、寺跡の墓地などにある石造物に「平木内講中」「山里中」「新回原講中」「西原講中」などと見られ、同コミュニティセンター敷地内にまつられる1740（元文5）年3月造立の庚申塔には「平木村平木」と刻まれています。

富士浅間信仰は1750年ごろから江戸で流行し、信者の集まりである「富士講」が広まったとされます。市域で最も古い浅間宮の石祠は、1713（正徳3）年のもので平木にあります。

6月1日の浅間参りは、本格的な夏の到来を告げるものといえるでしょう。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080